

「品格を求めて―社会に適応できる強くてしなやかな女性の育成―」 社会人基礎力を要請するマナー講座充実と学生支援の取り組み

澤田 小百合

(九州女子大学・九州女子短期大学学生支援課課長)

一、九女の過去と現在

―大学改革や学生気質の変化の中で―

昭和二十二年に福原高等学院として建学発祥した九州女子大学・九州女子短期大学は歴史も古く良妻賢母の女子教育の中で、「自律処行」の精神を基本理念にかかげ推進してきた大学であった。

筆者も本学の卒業生であるが、学生時代の状況は本学の基本精神に則り、自ら立てた規範に従って、自己の判断と責任の下に行動できる強くてしなやかな女性の育成を基本に大学教育がなされていた。

その一つの事例として、正門に入る時は必ず一礼して入

る事が習慣化されていた。また、当時は大学としては珍しく黒いスーツの制服着用であったため、自然にスーツの着こなしが出来ていたのも事実である。本学の学生のキャッチフレーズとして、「純で素直で明るくて笑顔が絶えない九女生」も本学の学生を総称した言葉であったように思う。

それが少しずつ大学改革の波に吞まれ、厳格な事、厳しい事が、今の学生に受け入れられなくなってきた時、本学でも時代の波に吞み込まれていったのも事実である。歴史や伝統文化を捨て、今風の大学へと変貌しなければならなかった平成の時代に、もう一度、本学の持つブランド力を

追求し、建学の理念を広く地域に知らしめていくことこそ、私たち卒業生に課せられた課題であると感じて、現代ニーズに即した修正を加えながら様々な取り組みを行った。

二、九女型学生支援の取り組み

― 福原学園中期計画における実践 ―

平成二〇年度から実施された福原学園中期計画は、重点課題として「学生確保」・「教育活動」・「学生支援」・「キャリア支援」・「研究推進」・「国際化」・「教職員管理運営」・「財務」・「教育研究環境」・「地域貢献」の十項目について六カ年計画をたて各課が各課題について取り組んで行き、各年に成果をまとめていく事業である。それぞれの重点課題に即して詳細を検討し部局の施策として、「学生支援」・「キャリア教育」の二つの分野について適切な業務・事業を行っている。

特に重点項目として総合相談窓口「なんでも相談窓口」総称して九女ルームの設置・生活面でのマナー指導強化・学生代表との定期的な意見交換システム（キャンパスミーティング）・学生満足度アンケート、キャリア支援の分野では企業に対する人材アンケート調査・雇用主による卒業

生の実績評価に加え、三年以内の卒業生への大学満足度アンケートを実施している。

(I) 九女ルーム

学生生活専門のカウンセラー・アドバイザーや学習支援の専門アドバイザー、就職指導の専門キャリアカウンセラー等の職員を常時配置し、近年、中等教育や高等教育で問題視されている「心の教育」・「基礎学力低下」に対応し、学生の疑問に対する水先案内人的役目を果たして、学生の不安を取り除く事を目的として、何時でも気軽に足が運べ、気軽に相談できる場所として機能している。就職を控えた学生にとっては、それ自体がストレスであり、就職活



九女ルーム

動がスムーズにできない学生も増加している。特に就職係に來られない学生のために就職に対する不安感を取り除くことを目的とした「キャリアアドバイザー」を九女ルームに配置した。月平均の利用率も一八〇名程度と常に安定した相談人数となっている。

(Ⅱ) 生活面におけるマナー指導強化

近年の学生の傾向として、基本的な生活マナーを知らない学生が増え、地域で生活する時に社会的常識が守れない学生が増加してきた。家庭や学校教育の中で生活マナーを学ぶ機会がなく、ことさら学ぶものではないと考えている学生が多いからと推測される。しかし、生活マナーは、社会生活を円滑に過ごすための必須要件であるといえる。本学では在学中に身に付けておくべき生活マナーを現代社会に生きる女性の見識として学ぶ機会を与え、社会に適応できる人材を育成するために、「防犯・ゴミ分別講演」・「薬物・喫煙に関する講演」・「防犯講習会」・「生活安全に関する講演会」・「国民年金に関わる講演会」等を実施している。

(Ⅲ) キャンパスミミーティング

学生の代表者（毎回違った学生の代表）と学長と学生部長を交えて、大学は学生が中心であるとの考えの下、定期

的な意見交換を行い、本学に学ぶ学生の意見を聴取し大学運営の参考にしていく。このキャンパスミミーティングを取りまとめ、学生が自ら大学運営に関わる事や、本学の理念「九女らしさ」を求めるために、年に一回学友会を中心にリーダーズ研修を行う。この研修から学生達の考案した、

朝の挨拶運動「スマイル運動」、大学で出るプルタグやペットボトルの蓋の回収を行い、ポリオワクチンの参加協力を行う「回収運動」、学生間の交流事業である「スポーツフェスティバル」、文化部の活動発表会と日本伝統の浴衣の着こなしを学ぶ「浴衣の日」の行事やボランティア活動が現在も継続しており、学生自らが考える「九女らしさ」の追求を行うきっかけとなっている。

(Ⅳ) 学生満足度アンケート

学生のニーズを把握するために、フィードバックアンケートの調査結果とキャンパスミミーティングでの学生の意見や窓口対応を基に、学生に対して満足度アンケートを実施



H21 リーダーズ研修

する。この調査結果は学生部委員会で検討を行い、必要に応じて教職員に通知する。これら学生のニーズに対して、教職員が共通の意識を持つことにより、学生に則した支援を行うことができ、学習意欲の向上や退学抑制につながっていく、また、「九女ルーム」との連携により学生の満足度をより一層上げることが目的にして実施している。

(V) 人材アンケート調査の実施・雇用主による卒業生の

実績評価

大学のキャリア支援の一環として、企業・事業所に対して、企業が求める人材の調査を行うことにより、本学が社会に通用する学生の育成の基盤と、どのような求められる人材を育成していけばよいか具体的に見つめ直し、新規就職開拓の足がかりとして情報を蓄積しながら、九州女子大学同短大学生の「ブランド力」の確立につなげる。

そのために、平成二十年度から卒業生に対する追跡調査を始めた。今後の就職問題を考えた時に、在学学生にとって、企業等に勤務するOG情報は欠かせないものであり、雇用主が卒業生の評価をどのようになっているのかは、大学独自の評価にもつながるため、必要な情報であると共に、雇用主との信頼関係もつなぐことができる。これは、企業訪問で訪問した際に卒業生の状況を聞かれること

が多かったからである。卒業生に対する追跡調査は、就職先の情報や在学生の就職先としてつなげていくうえで必要不可欠であり、大学と卒業生をつなぐツールとして今後も有効に活用していくことができる。

三、九女型学生支援の一つの集大成として

― 学生支援推進プログラムによる実践 ―

学生支援事業を項目毎に実施していく中、現在本学に欠けているものや学生と大学との考え方のギャップなど色々な事が見え始めた。あらためて本学の学生を社会に通用する学生に育てていく事の重要性を教職員全員が感じ、平成二十一年度文部科学省「大学教育・学生支援推進事業」テーマB学生支援推進プログラムの採択を受けた。ここでは、前段に挙げた中期計画を骨格とした内容の集大成としての取り組みを実施する。

この取り組みテーマは、本学が本来持っていた「九女力」つまり九女ブランドの再出発という意味で「品格を求めて―社会に適応できる強くてしなやかな女性の育成―」をテーマとした。その内容はこれまで本学で取り組んできた事から出てきた結果や学生の意見を基に作り上げていった。

若者の就職に対する意識の低さ、早期離職率の高さは現在の日本の最大の損失であり、大学現場でも向き合うべき危急な課題の一つといえる。本学では、卒業後三年以内の離職率が全国平均を上回っている現状と「コミュニケーション能力」「やる気・情熱」「ストレスコーピング」を強化する必要性のあることが卒業生の追跡調査で明らかになった。その主たる要因として、現在の学生の対応力や精神的な耐性の低さがあると考え、求められるスキルの獲得や体験学習、及びライフプランをイメージしたプログラムを可能限り実施してきた。

このプログラムでは、各人が学習目標を持ってキャリア形成ができるように、学生一人ひとりに合った就職支援を行い、卒業後も社会に適応できる人材に育成し、学生生活及び学生支援に対する満足度を高めるとともに、二十一世紀型市民の育成につながるような本学が理想とする学士力の向上に努め、卒業後三年以内の離職者数の減少と就職先での定着度を高める為に、スキルアップシートを利用した「バーチャル体験」と「マナー・プロトコール講座」・「就職の何でも相談窓口（九女ルーム）」の設置を行い、スキル獲得とストレスの耐性を強化しながら個々のライフプランをイメージする支援と体験型プログラムを実施すること

で、学生の出口ニーズの把握と学生満足度を高め、現実企業が求める基本的な能力を備えたしなやかな女性、人間力の育成を図る事が主な目的となっている。

その中で、特に近年の学生に多く見受けられるのが、コミュニケーション能力の低さであろう。職場等で求められる能力について、基礎学力や専門知識に加えコミュニケーション能力や実行力、積極性などが必要との指摘がある。コミュニケーション能力は、多様な人々とのチームワークにより、新しい価値を創造する際に必要な能力であり、職場で特に重視される傾向にある。IT化やグローバル化、家庭・教育環境の変化により、従来「常識」とされていたものはや「常識」ではなくなっている状況下において、本学の学生には、社会で通用する本格的なマナーの習得に取り組む事により「九女らしさ」の追求を図り、マナー・プロトコール検定を取り入れながら、可能な限りマナー習得を目指す講座を学生支援において繰り返し実施してきた。

マナー・プロトコール検定とは、日本マナー・プロトコール協会が実施している国際標準のマナーとプロトコールに関する知識・技能を客観的に評価する我が国唯一の資格検定である。この講座では、国際化が進む中で生活やビジ



マナープロトコール講座

二一年)の合格者は、Ⅰ期九三・四%、Ⅱ期九六・六%と高い合格率であった。

様々な学生支援課の事業展開の中で、学生から出てきた意見として、どのような自己実現を目指すのか、生き方をしたいのかの意見聴取(リーダーズ研修の中)で出てきた内容に大きなヒントがあった。学生は、未来の可能性を求めするために、何かを学びに高等教育機関に入学し、それぞれの個性に合った学びを実践していく。しかし本来、地域・家庭・学校のコミュニティという環境で培われていた

ネス、国際交流の場として不可欠なマナーや国際儀礼について学習し、どんな社交の場でも臆することなく自然に社会性のある立ち居振る舞いを行うことができるよう養成することを目的にマナー・プロトコール三級の取得者九〇%を目指し実践した。初年度(平成



大学風景

人間教育が難しい社会環境となってきた現在、本学に入学してきた学生には、社会で生きていくための力をつけるために社会人基礎力の養成の一環としてマナー講座の実施は非常に効果が期待できる事業となり、今後も「九女力」の大きな一翼を担うものと確信している。



文華祭着付